

## 2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月8日

上場会社名 株式会社タカミヤ 上場取引所 東  
 コード番号 2445 URL <https://www.takamiya.co/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 高宮 一雅  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員経営管理本部長 (氏名) 辰見 知哉 TEL 06-6375-3918  
 四半期報告書提出予定日 2022年2月9日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	29,824	3.7	986	△37.3	1,113	△21.9	357	△58.3
2021年3月期第3四半期	28,757	△16.1	1,573	△43.3	1,425	△45.5	856	△51.1

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 542百万円 (△45.9%) 2021年3月期第3四半期 1,004百万円 (△41.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	7.67	7.43
2021年3月期第3四半期	18.39	17.87

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	57,126	18,690	31.7	389.35
2021年3月期	56,454	18,768	32.3	391.96

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 18,135百万円 2021年3月期 18,253百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	6.00	—	8.00	14.00
2022年3月期	—	6.00	—		
2022年3月期（予想）				8.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,300	9.0	2,150	35.5	2,170	38.3	1,140	32.9	24.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	46,585,600株	2021年3月期	46,577,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	7,020株	2021年3月期	7,020株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	46,575,921株	2021年3月期3Q	46,569,980株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

（金額の表示単位の変更について）

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルスのワクチン接種普及に伴い、経済活動に一部持ち直しの動きもありますが、足元では新たな変異株拡大により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが関連する国内建設業界は、民間建設工事の一部の現場において、工事の中断や遅延、着工の延期など、厳しい状況でのスタートとなりましたが、首都圏の改修工事を中心に回復基調が見られました。海外におきましては、販売子会社が所在するフィリピンでは、政府による外出・移動制限措置により事業活動が制限され、また、製造子会社が所在するベトナムにおいても一時フィリピン同様の制限措置が設けられるなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境の中で、当社グループは2021年5月31日に発表しました中期経営計画において、「トランスフォームにより新たな価値を創造し、お客様のパートナー企業となることで、持続的な成長を目指す。」という経営ビジョンを掲げ、「Iqシステム」を中心としたハードとソフトを融合したサービスの開発、維持補修・再インフラ向け製品の強化、仮設部門以外の事業育成、海外事業基盤の再整備、この4施策に取り組んでまいります。特に当第3四半期連結累計期間においては、新たなプラットフォームビジネス構築に向けて、「Takamiya Lab. West」への投資を中心に、最大・最適化を目的とした設備投資、人的投資を進めております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高29,824百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益986百万円（前年同期比37.3%減）、経常利益1,113百万円（前年同期比21.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益357百万円（前年同期比58.3%減）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### ①販売事業

仮設部門においては、「Iqシステム」に対する関心は依然として高く、新規及び継続案件ともに引合いは堅調に推移しております。また、昨今の鉄鋼価格の上昇を受け、価格改定前の駆け込み需要もありましたが、ベトナムの外出・移動制限措置により、生産量が一時低下したため、売上の増加も限定的となりました。仮設部門以外においては、農業用高機能ガラスハウス建設工事等により、アグリ関連売上が増加いたしました。

これらの結果、売上高10,054百万円（前年同期比25.7%増）、営業利益1,057百万円（前年同期比26.0%増）となりました。

#### ②レンタル事業

民間建設工事においては、工事の中断や遅延、着工の延期など、厳しい状況が継続しましたが、首都圏の維持改修工事を中心に「Iqシステム」の貸出量が高く推移いたしました。一方、建築、土木分野では前連結会計年度のような大型現場への出荷が減少し、仮設機材の貸出量が減少いたしました。利益面におきましても、仮設機材の貸出量の減少に伴い、減価償却費等の固定原価割合が増加したことによりセグメント利益率が低下いたしました。

これらの結果、売上高17,327百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益818百万円（前年同期比55.3%減）となりました。

#### ③海外事業

販売子会社であるDIMENSION-ALL INC.（フィリピン）においては、マニラ首都圏の外出・移動制限措置により事業活動制限が継続され、厳しい状況は続いておりますが、販管費の削減に努め、収益改善を進めております。また、製造子会社であるホリーベトナム（ベトナム）においては、原材料・部品の調達に大きな影響はなく順調に推移いたしました。一時外出・移動制限により事業活動が制限され、日本国内向け製品の生産量が一時低下いたしました。

これらの結果、売上高4,743百万円（前年同期比22.6%増）、営業利益214百万円（前年同期は営業損失43百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、57,126百万円となり、前連結会計年度末と比べ671百万円増加いたしました。この主な要因は、貸貸資産（純額）の減少860百万円、建物及び構築物（純額）の増加1,495百万円等によるものであります。

負債合計は、38,435百万円となり、前連結会計年度末と比べ749百万円増加いたしました。この主な要因は、支払手形及び買掛金の増加728百万円、短期借入金の増加426百万円、社債（1年内償還予定の社債を含む）の減少185百万円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の減少242百万円等によるものであります。

純資産合計は、18,690百万円となり、前連結会計年度末と比べ78百万円減少いたしました。この主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益357百万円及び剰余金の配当652百万円による利益剰余金の減少295百万円、為替換算調整勘定の増加171百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2021年10月29日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,032	7,746
受取手形及び売掛金	11,675	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	10,956
商品及び製品	3,184	3,311
仕掛品	893	951
原材料及び貯蔵品	1,023	1,430
その他	525	877
貸倒引当金	△427	△309
流動資産合計	24,907	24,964
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産		
貸貸資産	38,687	38,637
減価償却累計額	△25,475	△26,285
貸貸資産(純額)	13,212	12,351
建物及び構築物		
建物及び構築物	7,904	9,671
減価償却累計額及び減損損失累計額	△3,755	△4,027
建物及び構築物(純額)	4,148	5,643
機械装置及び運搬具		
機械装置及び運搬具	2,839	3,067
減価償却累計額	△1,608	△1,822
機械装置及び運搬具(純額)	1,231	1,245
土地		
土地	7,849	7,808
リース資産		
リース資産	1,091	1,229
減価償却累計額	△611	△767
リース資産(純額)	479	461
建設仮勘定		
建設仮勘定	195	240
その他		
その他	1,354	1,535
減価償却累計額	△990	△1,090
その他(純額)	363	444
有形固定資産合計	27,480	28,197
無形固定資産		
借地権	327	327
その他	498	452
無形固定資産合計	826	780
投資その他の資産		
投資有価証券	504	452
差入保証金	710	734
退職給付に係る資産	84	86
繰延税金資産	774	659
その他	1,199	1,285
貸倒引当金	△33	△33
投資その他の資産合計	3,240	3,184
固定資産合計	31,547	32,161
資産合計	56,454	57,126

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,668	6,396
短期借入金	3,478	3,904
1年内償還予定の社債	871	421
1年内返済予定の長期借入金	6,308	6,015
リース債務	368	380
未払法人税等	353	194
賞与引当金	296	174
設備関係支払手形	344	199
その他	1,864	2,314
流動負債合計	19,554	20,000
固定負債		
社債	3,278	3,542
長期借入金	11,354	11,405
リース債務	1,145	995
退職給付に係る負債	1,001	1,001
資産除去債務	13	19
その他	1,339	1,470
固定負債合計	18,131	18,435
負債合計	37,685	38,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,050	1,052
資本剰余金	1,908	1,910
利益剰余金	15,392	15,097
自己株式	△3	△3
株主資本合計	18,347	18,056
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	55	50
繰延ヘッジ損益	△6	△1
為替換算調整勘定	△104	67
退職給付に係る調整累計額	△38	△37
その他の包括利益累計額合計	△94	78
新株予約権	357	384
非支配株主持分	157	170
純資産合計	18,768	18,690
負債純資産合計	56,454	57,126

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	28,757	29,824
売上原価	20,185	21,713
売上総利益	8,571	8,110
販売費及び一般管理費	6,998	7,124
営業利益	1,573	986
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	10	10
受取賃貸料	55	62
賃貸資産受入益	6	8
スクラップ売却収入	43	113
為替差益	—	69
その他	101	111
営業外収益合計	223	379
営業外費用		
支払利息	185	156
支払手数料	51	51
社債発行費	—	13
為替差損	76	—
その他	58	32
営業外費用合計	371	253
経常利益	1,425	1,113
特別利益		
固定資産売却益	4	8
投資有価証券売却益	—	53
特別利益合計	4	61
特別損失		
固定資産除却損	9	1
投資有価証券評価損	—	284
減損損失	—	41
特別損失合計	9	327
税金等調整前四半期純利益	1,420	846
法人税、住民税及び事業税	397	358
法人税等調整額	146	117
法人税等合計	543	476
四半期純利益	877	370
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	13
親会社株主に帰属する四半期純利益	856	357



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	877	370
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	△5
繰延ヘッジ損益	6	4
為替換算調整勘定	92	171
退職給付に係る調整額	4	1
その他の包括利益合計	127	172
四半期包括利益	1,004	542
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	983	529
非支配株主に係る四半期包括利益	20	13

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	販売事業	レンタル事業	海外事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	7,892	18,549	2,315	28,757	—	28,757
セグメント間の内部 売上高又は振替高	102	27	1,553	1,683	△1,683	—
計	7,995	18,577	3,868	30,441	△1,683	28,757
セグメント利益 又は損失(△)	839	1,832	△43	2,627	△1,054	1,573

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,054百万円には、セグメント間取引消去239百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,294百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	販売事業	レンタル事業	海外事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
顧客との契約から生じ る収益	9,742	9,513	2,210	21,466	—	21,466
その他の収益	—	7,801	557	8,358	—	8,358
外部顧客への売上高	9,742	17,314	2,767	29,824	—	29,824
セグメント間の内部 売上高又は振替高	312	13	1,976	2,301	△2,301	—
計	10,054	17,327	4,743	32,126	△2,301	29,824
セグメント利益	1,057	818	214	2,090	△1,103	986

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,103百万円には、セグメント間取引消去216百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,320百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他の収益には、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づくリース収益等が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。なお、当該変更による影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

報告セグメントに配分されていない減損損失は41百万円であります。